

10. 耳鳴り、頭痛がありますか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

11. ひどく疲れを感じることはありますか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

12. それ以外の身体の調子はどうですか。

血圧など持病の変化

(精神面)

1. 気分が高揚していますか。いわゆる「ハイ」になっていますか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

2. いらいらしやすいですか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

3. 気持ちが焦っていますか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

4. 怒りやすくなったと思いますか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

5. じっとしていられない気がしますか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

6. 気持ちが落ち込んでいますか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

7. 気力・やる気が出ない感じがしますか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

8. 涙もろくなったと感じますか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

9. 集中力が落ちた感じがしますか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

10. 忘れっぽくなりましたか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

11. 人に会うことが負担になりますか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

12. どのような心配や気がかりなことがありましたか。

拘禁中

解放後

現在

*) その心配のために、ひどく落ち着かなかつたり、他のことが考えられないことはありましたか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

1 3. 特に理由がないのに、不安な気持ちになることはありますか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

1 4. 行動にまとまりがないと感じますか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

15. わけもなくぼんやりしたり、困惑することがありますか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

16. 物音に過敏（敏感）になりましたか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

17. 周りの出来事が自分とは関係がないような気がしますか。

拘禁中

1週間	はい	+-	いいえ
1ヶ月	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

18. 事件の光景が目の前にありありと浮かんでくるようなことはありますか。

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

*) その時に不安になったり、落ち着かなくなることはありますか。

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

19. 事件のことを思い出さないようにしていますか。

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

*) 事件を思い出させるものを見聞きしないように避けていますか。

解放後

初日	はい	+-	いいえ
数日間	はい	+-	いいえ
それ以降	はい	+-	いいえ

現在

はい	+-	いいえ
----	----	-----

20. その他、何か精神的に気になることはありませんか。

(面接時の観察)

思路

発話

視線・応対

行為

客観的な不安・緊張 - + ++ +++

(表情・姿勢の緊張、小刻みな体動、まばたきなど)

焦燥感 - + ++ +++

高揚感 - + ++ +++

多弁 - + ++ +++

多動 - + ++ +++

興奮 - + ++ +++

抑うつ - + ++ +++

罪責 - + ++ +++

転導性の亢進 - + ++ +++

その他

() - + ++ +++

() - + ++ +++

() - + ++ +++

資料2 ペルーにおける面接調査の協力依頼状

謹啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私どもは、各種の災害、事故、犯罪などにおけるストレスのもたらす影響と、適切な治療対応法について厚生省の助成を受けて研究班を組織し、調査を進めております。

この種のストレスの影響については最近ようやく社会の関心も高まって参りましたが、日本における知見は非常に乏しいのが現状であり、治療についても諸外国の知見をそのまま輸入しているに過ぎない段階です。日本の実情に即した診断と治療のガイドラインを作成することが、今後是非とも必要であり、そのために努力をしているところでございます。

つきましては過日のペルー日本大使公邸占拠事件に関しまして、上記の主旨をご賢察の上ご助言を賜りますことをお願い申しあげたく、不躰とは存じますがご連絡を差し上げた次第です。

研究班のうち、金吉晴、小西聖子、笠原敏彦の3名は、先般のペルー日本大使公邸占拠事件に際しまして、医療班として現地に派遣され、元人質と家族の一部の方と面談をし、必要に応じて助言を行って参りました。(ちなみに医療班は解散しております。今回のお願いは、純粋に医学的な立場からのものです)。

ご承知のように、今回の事件は日本にとって初めての経験であり、私どもメンタルヘルスの立場からしても、様々な反省点と教訓を残しております。私ども研究班としては、この事件について十分な情報を集め、あつてはならないことですが、万一同様の事件が生じた場合の対応を検討しなくてはならないと考えております。特に家族の保護、マスコミへの理解の周知徹底などが、今回の重要な反省点として浮かび上がっております。

事件の解決後、医療班は解散いたしました。上記3名はこれまで帰国された方にご協力をお願いし、承諾をいただいた方につきましては改めてお会いし、貴重なご教訓をいただいております。とかく誤解されがちなことですが、私どもの目的は、決してご本人の中にありもしない病気を見つけだそうとすることではございません。むしろこれまでの面談からは、元人質の方が全体としては非常に健全な適応と回復を見せておられることが明らかになっております。もちろん皆様、ご家族のご健康を気遣う気持が大前提ではございますが、報告の基調としては、このような好ましい過程を促した要因は何であったのか、それを阻害しないためにどのような配慮が必要なのか、ということになると思われまます。その際には個人の情報が特定されることの無い様に致します。

米国でのベトナム戦争兵士についての研究でも、心理的に頑健であった人々の調査がありまして、それを通じてPTSDなどの理解が進んだという事例がございます。私たちの報告も、個人のメンタルヘルスに関する部分においては、それと同じ意味を持つものと考えております。

上記の研究班はこの7月に発足いたしました。その予算が付きまして、上記3名でペルーに赴くこととなりました。目的は、元人質の方からのご教示をお願いすることと、ペルー人元人質についての現地精神医療担当者との意見交換を行うことです。

これまで日本で元人質の方からのお話を伺って参りましたが、現地に留まっておられる方からのお話を伺う機会がございませんでした。私どもと致しましては、是非この機会にリマにおられる皆様からも貴重な情報をいただき、この事件の教訓を後世に残したいと念じております。また、日本における多くのストレス災害での援助活動に役立てたいと願っております。

事件解決から一年以上も経ってからこのようなお願いをすることを大変心苦しく思っておりますし、こうしたお願いそれ自体が新たなご負担になることを懸念しておりますが、どうか宜しくご協力下さいますよう、お願い申し上げます。

諸般の事情に依りまして、ペルー訪問は9月15日午前1時リマ着、同21日午前2時リマ発となっております。やや差し迫っておりますが、この間のご都合の良い日時に1時間ほどお目にかかれまして、望外の幸せに存じます。

御多忙のところ大変恐縮ですが、金吉晴宛にFAX等にてお返事をいただければ大変にありがたく存じます。面談の日時、場所をご希望に従う所存です。

何とぞ宜しくお願い申し上げます。

尚、本状は在リマ日本人元人質全員に発送しております。

謹白

資料3 家族に対する質問票への依頼状

ご家族の皆様へ

この度はペルー日本大使公邸人質事件におきまして、人質になられたご本人はもとより、そのご家族の心労も並々ならないものがあったとお察し申し上げます。私どもはこれまで、事件の元人質の方にご協力をいただきまして、事件後の面接を行って参りましたが、その中で浮かび上がってきました問題の1つが、家族に対するメンタルな支援の不足ということでした。このような事件は2度と再びあってはならないことですが、しかし後世に何らかの教訓を残していくことも私たちの責務であると考えております。

ご家族の方にはあるいは思い出したくない点多々あるとは存じますが、この目的のためにご協力をいただけましたら、望外の幸せに存じます。以下の項目は、これまでご家族の一部の方との面接から浮かび上がった問題点を書きだしたものです。これらにつき、可能な限りでご回答をいただきますように、よろしくご協力の程、お願い申し上げます。なお、言うまでもないことですが、個々人の回答は決して公表されませんのでご安心下さい。

なお、ご家族のうち、すでにお話をお伺いしている方に取りましては、重複する項目もありますが、何卒ご容赦下さい。

年齢 当てはまる年代に○を付けて下さい。

20—

30—

40—

50—

60—

長期人質になられた方のご関係

妻

親

子

その他

人質事件中の居所

全期間リマにいた

リマにいたが途中で離れたことがある 合計 日くらい

日本にいたが途中からリマに来た 月頃から

全期間日本にいた

(この分類に当てはまらないときは、簡単にお書き下さい)

人質事件中に一緒に暮らしていた家族

子	常に	かなり	半分くらい	少しの間	なし
舅・姑	常に	かなり	半分くらい	少しの間	なし
親	常に	かなり	半分くらい	少しの間	なし
親族	常に	かなり	半分くらい	少しの間	なし
その他の親族	常に	かなり	半分くらい	少しの間	なし

事件発生後にご自身も人質になられましたか。

ならなかった

なった 時間後に解放

解放後に次のような状態になりましたか

眠りにくい

非常にあった あった 多少 無し

不安で落ち着かない

非常にあった あった 多少 無し

「ハイ」になったような気分で、妙に元気が良く、口数が多い

非常にあった あった 多少 無し

事件のことを何度も思い出して頭から消えなかった

非常にあった あった 多少 無し

解放されているのに、事件の現場にいるような気がした

非常にあった あった 多少 無し

本当に起こったこととは思えなかった。

非常にあった あった 多少 無し
事件についての感情が麻痺したようだった。

非常にあった あった 多少 無し
食欲が落ちた

非常にあった あった 多少 無し
ちょっとしたことでもドキドキした

非常にあった あった 多少 無し
体の具合が色々と悪くなった

非常にあった あった 多少 無し
家事や育児、いつもしていた活動ができなくなった。

非常にあった あった 多少 無し

これらの症状の影響は、全体として、いつ頃まで続いていたと思われますか。

1週間以内

一ヶ月以内

2,3ヶ月

事件解決まで

事件解決後も

解放を待っている間、ご心配だったこと、つらかったこと、困ったことをお聞かせ下さい

(自由記載)

解放までにどんな援助があったらよかったと思われますか。

- 1 事件情報が定期的に届くシステム、もしくは問い合わせ先
- 2 定例の合同説明会
- 3 家族専任の、秘密を守ってくれる相談相手
- 4 24時間のホットライン
- 5 個別訪問（看護婦、相談員による）
- 6 家族同士のミーティング
- 7 その他（自由記載）

実際に受けた援助のうち、どのようなものが役に立ったでしょうか

周囲の対応の中で、これは的外れであるとか、むしろ止めてほしかったものはありますか

解放直後、御主人にお会いになったのは何日後でしたか。

その時の御主人のご様子は如何でしたか。

心配そうだった

気持が高ぶっていた（「ハイ」になっていた）

口数が多くなっていた

眠りにくそうだった

いらだっていた

酒量が増えていた

その他（

）

特に普段と変わりなかった

解放後のご自分のお気持ちは如何でしたか

興奮していた

力が抜けるようだった

気持が麻痺したようだった

いつまでも話していたかった

落ち着きがなかった

事件のことが、本当のこととは思えなかった

眠りにくかった

その他（

事件解決後、居住地の変更についてお聞かせ下さい

現在もリマに滞在

事件後 ヶ月で日本に帰国

事件後 ヶ月で日本以外の国に赴任

事件後、多くの方は日本に一時帰国されておられますが、そのことについてお聞きします。

事件直後に一時帰国をしなかった。

事件の 日・週間後に、 日間の一時帰国をした

一時帰国中、ご家族の目から見て、どのような対応が望ましいと思われましたか。

- 1 人間ドックなどの身体検査
- 2 カウンセラーなどによる心の問診
- 3 郷里や温泉地などでの、家族だけの静養
- 4 世話になった関係者への挨拶
- 5 その他（自由記載）

また、望ましくないことはどのようなことでしょうか

事件が終わってみて、自分の生活や気持ちに、それ以前と変わった点がありますか

今回私どもでは、メンタルヘルスについて、元人質の方にご協力をいただいて聞き取り調査を行って参りました。しかしこのような調査を行うこと自体がストレスになるのではないかとすることも懸念しております。一般に、このような活動についてどのようにお考えでしょうか。

もっと積極的に行ってほしい

できるだけ行った方がよい

行っても構わない

行わなくても良い

特に必要のない限りはやらない方がよい

やらない方がよい

ご協力有り難うございました。

なお、もしご意見・ご感想等がおありでしたら、ご遠慮なく御連絡下さいますよう、お願い申し上げます。

秘密は厳守いたします。

資料4

*本資料は、直接に当研究班の活動と関連するものではないが、拘禁テロ事件の考察でも明らかになったように、過剰な取材攻勢が逆に人質や事件当事者の緊張を高め、メンタルヘルスに逆行する可能性がある。本状はその様な可能性を踏まえ、別件で関わっていた和歌山カレー事件について、マスコミ各社に送付した依頼状である。今後、万一拘禁事件が再発した場合にマスコミへの要望書が必要となった場合に備え、参考資料として掲載した。

和歌山カレー毒物混入事件における取材報道について

報道各位殿

はじめに

一般の和歌山カレー毒物混入事件につきましては、日頃から公平、正確な報道をご提供下さり、私ども同事件のメンタルヘルスを援助するものと致しましても、大いに助けられて参りました。また住民・被害者のメンタルヘルスの重要性につきましても、各報道媒体を通じまして適切な指摘を賜り、大いに勇気づけていただいたことにつきまして、厚く感謝申し上げます。

当研究班といたしましても本事件の発生以来、現地からの依頼によって住民のメンタルヘルス活動に協力して参りました。その中で住民の精神的健康を計る立場から、報道各社におかれましてご留意いただきたい点が浮かび上がって参りました。本来は個々の事例に則して、関係する報道機関を選んで送付すべきなのかもしれませんが、あるいは報道機関の合議機関に送付すべきなのかもしれませんが、当方として判断できませんでしたので、末尾に記しました各機関に一括して送付いたしました。

ここに述べましたことは、あるいは貴社におかれましてはすでにご配慮済みのことかとも存じます。不躰な点が多々あると存じますが、どうぞご寛恕の上、今後の報道のご参考にしていただければ大変有り難く存じます。

私どもは、報道を通じて住民の不満や苦境が世間に適切に認識されたり、また場合によっては、報道各位の方々と住民との信頼関係によって心理的な支えが得られてきたことも

十分に承知しております。しかしながら、広く地域住民の精神健康、ストレスからの回復過程をさらに進めて行くために、以下の点をご一考いただければ誠に幸いに存じます。

この書状は、厚生省精神神経疾患研究委託費に基づく研究班の班長としての見解をまとめてお伝えしたものです。研究班は厚生省から国立精神神経センターに委託された研究費によって運営され、また年度初頭と年度末には研究計画書と報告書を提出いたしますが、年度中の活動については研究班の自由裁量に任されており、厚生省やセンターに対して上申や指導等の関係にはありません。従いまして、今回の書状は厚生省もしくは国立精神神経センターとしての公式見解ではございません。たとえば感染症の研究者集団が、伝染病について自発的に警告を発する、というものと同列にお考え下さい。

また本状は11月30日付で東京のマスコミ各社に発送いたしました。しかしながら真に迂闊なことに、肝心の大阪、和歌山のメディアが送付リストから抜け落ちておりました。深くお詫びするとともに、ここに取り急ぎ御送付申し上げる次第です。

一般にこうした事件によって心理的な傷が生じた場合には、できるだけ二次的なストレスを避け、必要に応じてカウンセリングなどのケアを行いながら、本人自身の回復を辛抱強く待つことが必要となります。残念ながら、かなりの住民の間には、報道に起因する二次的なストレスが生じており、そのために事件そのものからの心理的回復が阻害されているだけでなく、適切な医療を受けることができなかつたり、時には非常に重篤な危機的な状況も見られております。もちろん根本的な原因は卑劣な事件そのものにあります。しかし怪我をした患者に、二次的な感染が起こらないように清潔、消毒処置をするのと同様、心理的なトラウマに対しても、二次的にそれを刺激して回復を遅らせることは避けるべきと考えます。

そのために重要と思われることを、3点にまとめて述べさせていただきました。

実際に生じている問題点

1 報道による住民のストレスについて

すでに各位におかれまして充分にご留意のこととは存じますが、事件地域は街道から入り込んだ一種の袋小路上の地形になっているため、報道各社の取材陣が現地に常駐

していることが、常に監視されているかのようなストレスとなっております。今回の事件では、当初犯人が特定されなかったために住民が疑心暗鬼状態となっており、その際に、他者から監視されているかのような状態が続いたことは、ストレス回復の阻害要因となっております。昨今は PTSD などのストレス性障害の重要性が報じられておりますが、こうした障害の悪化を防ぐために必要なことは、日常生活でのストレスを軽減させることです。残念ながら、日々の取材は、他の地域からの見物客と同様に、ストレス障害を増悪させております。

2 医療受診時の報道について

住民が心の相談を受けるときにもっとも懸念するのはプライバシーがいかに保護されるかということです。ところが残念なことに、心の相談室での相談中に、窓越しにフラッシュがたかれたために受診者が不安感を強め、面接に支障が生じたことがありました。また過日の住民健康診断では正門付近で受診する住民の撮影が行われたために、保健所職員が住民を家まで迎えに行き連れてきたにもかかわらず、車から降りることを拒んで自宅に引き返した例もありました。

住民の健康診断は今後も予定されておりますし、またそれ以外にも保健婦の訪問、住民自身による医療機関への受診などもあります。その際に同様の問題が繰り返されることを懸念しております。

3 事件の悲劇性の報道について

今回の事件は、同じように夏祭りに参加していながら、あるいは同じようにカレーを食べていながら、その後の犠牲の有無などに明暗が分かれてしまい、そのことが生き残ったものの罪責感を増しております。特に友人や仲間同士で誘い合わせて参加し、その一人が犠牲となった場合の生存者の罪責感、虚無感は非常に大きいものがあります。こうした巡り合わせの悲劇性についてはこれまでも報道されておりますが、あまりにその点を強調することは、上記の罪責感を刺激し、最悪の結果を生むことにもなりかねません。すでにそのような兆しは一部に見られております。

今後の希望事項

具体的にはあくまで報道機関においてご決定いただくことと存じます。あくまで一応の提案としてお受け取り下さい。